
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

◎議案第16号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第6、議案第16号 平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第16号は、平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算（第1号）についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長 山本 公君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○7番（関 唯彦君） 11ページですけれども、事業収益6400万円ということは、これは宿泊率になると何パーセント位になるんでしょうか。47パーセントでやったんですか。年度はじめは。

そうすると、どの程度になるのか、教えていただけるでしょうか。それがもうギリギリだなんていう話だったんですけれども。

○企画観光課長（山本 公君） すみません。ちょっとご説明が十分ではなかったかなと・・・、宿泊利用率は当初2万3500人で47パーセントを見込んでおりましたが、今回1万8896人ということで、37.8パーセントという数字になっております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○1番（藤井 要君） これは参考資料の方になりますけれども、委託管理の関係ですけれども、一番最後のページの4ページ、これは、委託料が252万円ほど増えていますけれども、887万4000円になっておりますけれども、この明細、主だったものをちょっとお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 大きいものでよろしいでしょうか。当初、635万4000円の中には、ビルの管理の関係で157万5000円ですとか、あるいは空調設備の関係で148万8000円、

あるいはエレベーターの管理で81万9000円というものを見込んでおりました。今回インターネットの関係の更新とか、そういったものの関係で委託料252万円増やさせていただいております。まつぎ荘のホームページの関係あるいは・・・主なものはただいま申し上げたとおりですけれども、まだまだあと小さいものは20万円とかというものはございます。

○1番（藤井 要君） 明細を出していただければありがたいですけれども。

○議長（稲葉昭宏君） 後で明細を出していくように要請いたします。

後から資料を提出してもらいます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（福本栄一郎君） 教えてもらいたいですけれども、最後の管理委託費明細書の4ページで、広告宣伝費がありますけれども、これはどんな会社に頼んで、そのような方法で宣伝しているんですか。その辺を教えてくださいませんか。

○企画観光課長（山本 公君） こちらの関係につきましては、取材の対応にかかる費用ですとか、お中元、お歳暮ですとか、あるいは新聞とか、そういったものの広告の関係ですとか、そういう諸々の、ダイレクトメールもそうですけれども、友の会とか、そういったもの諸々を混ぜて広告宣伝費というようなことで上げさせていただいております。

年度末も近いものですから、精算の意味で今回調整をさせていただいたものでございます。看板何かにも・・・、広告関係、エージェント対応関係、取材対応関係、そのようなものの積み上げでございます。

○2番（福本栄一郎君） これは、町長にお尋ねしますけれども、いわゆる精算的なことで今回減額380万円ですけれども、赤字がずっと続いているわけですね。それはよくわかるんですよ。ですが、やっぱりこういったときほど、逆説的な言い方かも知れませんが、広告というのは非常に全国的にも効果があると思うんですよ。特にテレビとか、お金はかかるでしょうけれども、バスのところに入れるとか。こういった苦しいときほどこういった広告を、外に向かって発信するという・・・、もちろん経費はかかりますよ。タダじゃないですから。宿舍会計が苦しいことはわかりますけれども、そういったことで、逆説的な意味で、広告で外に向かって発信するという町長のご所見がありましたら、お伺いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 本当に苦しいときに議員のいうようなことは本当だと思うわけですが、結果的にはこうなったわけですが、宣伝の仕方というのは、本当にどうやったら一番効果があるかというのをいろいろやっていて、非常に難しいものだなと痛切に感じているところでございます。議員さんの意見はそれなりに私も感じていますので、そのよう

なことを含めてこれからもやっていきたいと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○9番（一瀬寿一君） 今回の補正を、現状を見て、町長、どのように思うのか。ちょっと全体的なこの中で、今後のことを入れながら、今回のこの補正予算の中の内容をどのように思っているのかちょっとその辺を聞かせてください。

○町長（齋藤文彦君） 年度はじめは、売上目標3億2270万円、宿泊2万3500人、利用率47パーセントでスタートして、改善計画に則ってやってきたわけですがけれども、やってみて、なかなか何と言いますかね。この厳しい中でそれなりに自分たちも努力して、皆さんの努力でやってきたと思うわけですがけれども、このような、先ほど課長の発表したようなことになったわけですがけれども、非常にじくじたる思いがあります。

ただ、まつぎき荘だけに責任を押し付けるのではなくて、本当にお客さんがまつぎき荘に泊まれば黒字になるわけですから、松崎町を挙げてうまくお客さんが来るような体制をいろいろ考えているわけですがけれども、なかなかいかないところがありまして、非常に残念に思うわけですがけれども、これから頑張っていきたいなと思っているところでございます。

○企画観光課長（山本 公君） 一瀬議員には、委員というようなことの中で、叱咤激励をいただいているわけですがけれども、なかなか見ていただいたとおり、厳しい状況になっております。指定管理に決めていただく際もいろいろご議論あったところでございますけれども、改善計画などをこれまで提出させていただいて、できるものからでもかかっているというふうなことで、取り組んできたものもでございます。割引、富士山プランですとか、あるいは朝食バイキングを町民向けでやっているものとか、あとは、売店の5パーセント割引ですとか、少しずつではありますけれども、利用がみえてきているかなというふうに思います。けれども、まだまだマイナスということですので、それでは不十分だよというふうなご意見があるというのも承知しておりますけれども、3年間指定をいただいたということの中で、町長もこの3年の中で何とかしたいというふうに思っているところでございますので、振興公社共ども頑張っていきたいと考えております。

○9番（一瀬寿一君） 町長の方も返答に苦慮しているようですけれども、中を見ますと・・・、町長になってから、私は何回も何回もこのまつぎき荘については言っているわけですね。一向に改善もなされていないようだ、その辺も大事なことだと思いますけれども、中身を見ると、人件費も上がっている。管理費もちょっと上がっている。もちろんこれは先ほど電気料と言っていますけれども、これは仕方のない面もあります。補正ですから、当然

減額補正して、この補正だけは通さなければならない。予算のときにはまた話すけれども、こういう状況でいつまでも続いていると、これは大変なことになるよということを、町長、思っていたかかないと。

それで、どなたかの一般質問で、理事長を替えてもいいような、そんな話をちょっと出ましたけれども、本当は町長と公社の理事長が兼務しているということも本来これはよくないんだけれども、補正でいう問題ではないから、この内容だけのことを言いますけれども、減額補正ということですから、仕方がございませんけれども、今後につちえは大いにこれは考えていただかなければならないと、課長もいつも同じ答弁ばかりしているから、私も耳にたこができるような・・。もっと変わった答弁が出てくるかなと思うけれども、なかなか同じ答弁ばかり、今後ひとつ頑張っていたきたい。

○町長（齋藤文彦君） 巨大タンカー船がラダーを切ると、回り始めるのに5分位かかるというようなことがありますけれども、なかなかまつぎ荘も簡単に、舵を切ってもすぐになかなかいかないところがございまして、一瀬議員には本当にいろいろ右から横から斜めからいろいろアドバイスをいただいているわけですが、なかなか適切にいついていないところがありまして、重々承知していますので、3年間の指定管理が決まったわけですから、この間に何か徹底していききたいなと思っていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○5番（高柳孝博君） 一般質問の方でもさせていただきましたけれども、誘客に関しては、まつぎ荘だけではなくて、当然町全体あるいはもっと広域、西伊豆町とかいろいろ西海岸全体を考えると、ある所の首長さんが言ったのは、西海岸全体を夕日のラインにしようとか、花のラインにしようとか、そういった構想もあるわけです。それに向けて、まつぎ荘も当然何ができるかということを考えていかなければならないと思います。

前にも言いましたが、お客さんが来る要因というのは、景色と季節とおもてなしと営業だというようなことがあったわけです。その中で、施設の面で、なかなか施設というのは変えにくい、今さら投資はなかなかできないというところはあると思うんですが、例えば、同窓会みたいなものをやろうとしたときに、まつぎ荘でやろうかと選んだときに、例えば、2次会がやりにくい。もう一つは、時間が早いので、あそこはもっといろんな・・、せっかく懐かしい昔の同窓生たちと会うにしても、時間が早いので、あそこは選べない。そういうような声も出ているわけです。実際そういうのがあります。

ですから、そのあたりも考えて、例えば、これからやろうとしている中では、MICEと

いうのもありますね。会議とか何かを・・・、あそこで会議なんかをやろうと考えたときに、会議場があるかどうかという、小さな会議場はあるみたいですが、本当に本格的にやろうとすると、例えば、QCサークルの研修なんかですと大勢の方がくるわけですね。そのときに一堂に会してやる研修というのは、まずなかなかやりにくいというのがあって、そのあたりも、施設的なものも少し、若干ほかに流れている要因もあるのかと思います。

もちろん営業とおもてなしの部分については、改善策の中でやっていくと思いますので、そのところはぜひ営業の方でこれくらい・・・、先ほど「営業はどうやっていますか」という話がありましたけれど、営業に関しては、これまでこうやってきたけれど、こういうふうに変えました。これだけやりました。広告にしてもね。お客を取りに行く。営業マンがやっているのか知りませんが、営業マンがこれだけの活躍をしましたというようなものはぜひ見えるようにしていかないと、なかなか本当にやっているのかというような感じになるんじゃないかと思います。

もう一つは、いつもルートごとに調べたらどうかと・・・、そのデータをちゃんと取っているかどうか、そのデータに対してどういうアクションをうったかということになると思うんですが、そのあたりの考え方というのはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、会議室等の関係でちょっと回答させていただきます。施設において小さい、本当に小さいんですけども、会議室はございます。それで十分かという、施設を造ったときからのことですので、なかなかそんなに何十人というような、何百人というようなものは取れないわけですし、それは環境改善センター文化ホールですとか、そういうものと連携をしながら、その使用のことも考えながら誘致することは可能だというふうに考えておりますので、それは、こういう文化的施設以外でも、例えば、スポーツ、グラウンドの関係をお借りするとか、そういうこともスポーツの関係の団体を誘致するには、使うことも可能かと思います。

それから、営業の関係につきましては、なかなか今までも人員の問題でなかなか外へ出られないことが多いというふうなことでお話をさせていただきまして、宿泊客の形態を見ましても、団体のお客様というのが非常に少ない状況でございます。そういう意味もありまして、4月以降は、総支配人が中心になろうかと思っておりますけれども、営業に回って、外に出ていただいて、できるだけこちらの方に泊っていただくように誘致をしてくるということで考えておりますし、その宿泊施設だけではなくて、振興公社が管理している観光施設もあるわけですので、そちらと合わせた中で誘致する方法あるいは体験メニューを提供しながら誘致

する方法というのもあるかと思いますので、そういうことに心がけていただいてやってもらいたいなと思っています。

それから、データの関係でございます。確かにどのくらいの目標を立てて、その経過がどうなっているのかということは当然ながらやらなければならない。今まで十分できていないわけですので、以前改善計画でもどのくらいの人、この企画によって入れようかというようなことは提案させていただきまして、そういうものをもった話し合いも舩津係長に入っているところですので、少しずつそういう考え方は変わってきているのではないかなと思います。

それから、食事の関係、確かに8時までという中であるわけですがけれども、人員の問題もありますけれど、それは8時が8時できっちりというようなことではなくて、ある程度おもてなしというか、そのお客様の対応ということも・・・、それが9時、10時ということになってしまうと、今の状況ですとなかなか難しい部分もあるのかもしれないですけど、8時からきっちり8時に終わってくださいということではないような形の中でおもてなし、対応ができればいいなと思っておりますし、そういうふうに皆さんにやってもらうつもりであります。

○町長（齋藤文彦君） ちょっと付け足しで、誘客のことですけれども、伊豆半島にあります動物園の皆さんが協力して伊豆半島にお客さんをお呼び込むというような話があるわけですがけれども、伊豆半島グランドデザインの中でもみんな市町が協力して伊豆半島にお客さんをお呼び込むというので、いま首長たちでやっています。

それで、今度はホテルをですね。これは佐藤議員の方からの話がありまして、出たわけですが、ホテルのそういう、いま会合をもちまして、伊豆半島で全部をお呼び込もうじゃないかというようなことがスタートします。ホテルが、来たけれど見えない。松崎は見えないけれど、河津は見えますよというような情報を共有していこうということをやっていますので、伊豆半島全体でお客さんをお呼ぶことでいろいろやっているところでございます。

○5番（高柳孝博君） システム的にまつざき荘は難しいとよく言われます。そういうと、民間のシステムの方がいいじゃないかという話が当然出てくるわけですね。だから、要は、どっちに目を向けるかと、お客様が何を望んでいるか、おもてなしの第一原点はお客さんのニーズにあると思うんですね。だから、お客様のニーズにいかに応えるか。先ほどの会議室がなければ、環境改善センターを使います、それはお客さんにとっては、移動しなければいけない。大勢の方が移動する。例えば、200人の人を移動させるといったら大変なことな

んですよ。本当は。その中でできるということになると、すごく・・・、各部屋から荷物を部屋に置いて、すぐ会議室に行って、会議が終わったら戻ることができるんですけど、それから移動して、そこで会議をさせる。お客さんのことを考えると、非常にお客さんにとっては大変なことなんですよ。だから、そういったこと。

もう一つは、リピーターの話。リピーターというのは、非常にもう満足している方が多いと、そこら辺はちょっとデータが出てきていないのでわからないんですけど、リピーターはかなり確か4割位の方がリピーターとしてあったと思うんですが、そのリピーターの方が増えているのか、減っているのか、あるいはいろいろ策を打ったんですね。宿泊料の方を下げて、食事の方を確か多くしたと思うんですが、そういったことによってリピーターが本当に増えたのかどうか。食事で満足するということは、そこで食べてみなければわからないわけですので、リピーターを増やすということに向かっているんだと思いますけれど、そのあたりがちゃんとリピーターに対して、満足していただいているかどうかというようなことが今後の対策を打つのに必要ではないかと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、会場の関係ですが、なかなか大きなホテルみたいところで何百人収容のホールがあれば一番良いわけですけども、なかなかそういうものがご用意できない中で、じゃあ、どういう形の中で対応できるかということで、ある施設を利用させていただく、ただ、できるだけお客様にご不便がかからないように利用させていただく方法を考えていけばいいのかなというふうに思っております。

それから、リピーターの関係なんですけど、24年度決算ですと、46.3というような数値を申し上げました。今年度2月までで47.6なんですけれども、これは前も高柳議員からありましたように、分母が変わってくるとそれは変わるんだよというような、確かにそのとおりでございすけれども、それにいたしましても40数パーセントのリピーターはございますので、その方々を大切にしたい・・・、ほかの方も当然大切にしたいんですけども、何度も何度も来てくれる方を大切にしたい、更にお客さんを、声かけでも呼んでいただくということがいいのではないかなというふうに思っておりますし、まつざき荘へ帰ってきたというような形で皆さんがなってくればありがたいなと思っております。

食事の関係ですが、4月から区分を変えるわけですけども、今までの区分からですね。だからといってやっていないわけではなくて、材料費をちょっと上げまして、料理の充実を図ったりということをしているわけですけども、それはアンケートの中で、食事は良かつ

とか、あるいはホームページ「じゃらん」の評価なんかがございます、その中でポイントが出てくるわけですが、そういうものを確認しながら常にやっているところがございますし、食事に限らず、アンケートを見ながらすぐさま対応できるような形、あるいはお客さまとの話の中で改善できるものはすぐに改善していただくというようなことでやっているところがございます。

○5番（高柳孝博君） 3回目になるので・・・、私が申し上げたいのは、先ほど、例えば、会議室を使うということに対して、お客様が会議室を使えるようなシステムを造ったらどうかということです。だから、もし移動するのであれば、移動する手段をちゃんと考えてあげるとか、時間的なもの、お客さんが食事をした後、例えば、会議をしたらまた帰って来て、ちゃんと風呂に入れるようなタイミングとか、いろんなものを考えてあげて、会議をやる場合にはこういう・・・、例えば、送迎のシステムがありますというようなことを営業の中に盛り込んでいければ、会議の方も来てくれる可能性も出てくるんじゃないかと、そのあたりの、お客さんに対して労力をかけないということは非常に大事だと思いますので、補正予算でやる場所なのか、それとも、新年度の予算の中でこういう施策をやれと言った方がいいのか、わかりませんが、いずれにしても、今までやってきた中でそういったシステム作りというのを、しっかり作って、それでやっていくという、それは、もう一つは、一般質問の中でも言いましたが、県の方でいろんな施策をやっていますよね。県の方で施策をやっていることに対して、まつぎ荘はそれにどれだけ応えられるか、まつぎ荘なりに県の施策に乗かって、市町がやるという役目もありますから、それらに・・・、まつぎ荘というのは公営ですので、市町がやる役割について、リーダー的にモデル的にやることはできるわけですので、そのあたりのところもよく調べて、そういう策を乗けていく、そして、それを営業に結び付けるというようなことも考えてやっていかなければならないと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 当然営業も今後積極的にやっていくということでございますので、その中で、こういうこともできますよと、会議の関係もできますよとか、先ほど申しましたように、スポーツの関係、「グラウンドが使えますよ」、「体育館が使えますよ」、「それもお取りできますよ」というような形の中で、過去に高校の野球部の方なんか、私がまつぎ荘にいたときに、合宿みたいなもので来て、まつぎ荘を利用したこともありますので、そういうスポーツの面からの誘致も可能ではないかと思っておりますので、体験、入館施設の見学に関わらず、先ほど高柳議員が言いましたが、会議ですとか、スポー

ツですとか、そういう分野についてももっとお話ができればなというふうに考えております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○3番（佐藤作行君） 毎回この伊豆まつざき荘については、決算につちえも予算についてもこういう補正なんかについてもあまりいい話じゃなくて、毎回頭を抱えたような議題ばかり出てくるわけなんですけど、一つ、やっぱり私が気の付いたことは、予想した宿泊率よりも大幅に宿泊者数が減っているというようなことで、やっぱりそこらが一番の問題じゃないかと思うわけですよ。そうすると、どこに原因があるかと言えば、やっぱりこれは今までこういう価格設定あるいはこういうPRの仕方、あるいはこういう営業体制ということでやってきて、やっぱりそれがあまり良くなかったという結果がこれに出ていると思うんですよね。

それで、やっぱり町長にここらでもう・・・、振興公社に3年間委託したわけなんですけど、やっぱり方針の大転換で、ここらを薄利多売方式で宿泊率を上げるというような考え方はどうなんでしょうか。町長。

○企画観光課長（山本 公君） 当然町長も先ほど述べましたけれども、伊豆全体の問題ということもないわけではありません。まつざき荘事態の営業の問題もないわけではございません。そういう意味から、改善計画を立ててこれまで営業についてなかなか不十分だった部分を営業にもちゃんと数多く出て、お客さんを引っ張ってくるということも考えているわけですので、閑散期におきましては、割引プランみたいなものを導入して、そこでお客様を増やすというようなこともございます。

ずっと一年中値下げみたいなものをしていまして、値下げ合戦になってしまいますとなかなかほかの大きいところには当然かなわないわけですので、やはりまつざき荘に泊る意味、泊ってもらうことも考えてもらいながら、まつざき荘に泊るといいんだよというようなことも考えてもらいながらやっていきたいなと思っております。

当然今も割引は、富士山プランですとか、一人旅プランですとか、そういうものも時期をみながら組み込んでおりますので、そういうことで今、進めているところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 今までは支配人とか副支配人とか局長の方からなかなか意見が出ていなかったところもあるわけですが、このところ支配人、副支配人、局長の方からこうしたい、こうしたいといろいろな案が出てきて、本質的に変わってきたのかなというようなことがございます。佐藤議員のそういうのもいろいろその中で私もいろいろ話し合ってみたいなと思います。

○3番（佐藤作行君） 2回目なのですが、これはですね。やっぱり隣に、現実として伊東園さんがあって、8900円でやっているというような現実があるわけですよ。その中で、学生とか、あるいは明らかに高負担に耐えられない人が、もうそういう部分を伸ばしていこうとするならば、やっぱりある程度料金的にも低い設定をしないと、そういう層が掴みきれないんじゃないかと思うんですよ。そこらはどうですか。

学生を例えば連れてくるにしても……。この間うちの弟たちが泊ったときは、いくらですかと言ったら、1万円。だいたい1万円ですよというような価格設定のようですが、学生なんかを連れてくる場合は、もっとやっぱり少しでも、親の負担になるわけですから、安い方が良く、そんな結論になるかと思うんですが。

○企画観光課長（山本 公君） 価格の問題につきましてですけれども、安ければ良いというものでもないかなと思っておりますし、事実この高いホテルとか、何万円も・・・、6万円も7万円もするホテルにもお客様は来ているというようなこともございますので、その金額の価値以上のものがやはり提供できればいいんだろうなというふうに思っていますので、閑散期については、そういう方法も当然考えておりますし、富士山プランとか、一人旅プランですとか、その結果が11月以降ですけれども、少しずつ出てきているというような兆しも見えますので、改善計画に従ってやっていきたいなと思っております。

なかなか厳しい状況には変わりありませんけれども、やはり今まで以上にやっぱり努力をして、振興公社職員はじめ町一丸となってやってまいりたいと考えております。

○3番（佐藤作行君） すみません。これで終わりです。

今ちょうどPRなんかをかけるにしても、東駿河湾の周遊道路が繋がりましたし、東名からのアクセルも格段に向上したということで、ちょうど時期的にはタイムリーだと思うんですよ。そこらをとらえて、やっぱり効率的に誘客の方なんかも力を入れてやってもらいたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 東駿河湾環状道路が開通いたしまして、14分位ですかね、時間が短縮になるということで、こちらに来やすくなるということがございますし、国交省の沼津河川事務所ですか、アンケートなんかを取った結果、観光的にも来やすくなるねというようなことも出ておりますし、ついこの間、うちの係長と振興公社の方で海老名と駿河湾沼津サービスエリア、そこに行ってキャンペーンというか、PRをして、宿泊割引みたいな券を配布させていただいたりというようなこともありますので、そういった活動を地道に積み上げていって、誘客を図ってまいりたいと考えております。

○6番（土屋清武君） 今ちょっと伺った中で、26年度ですか、今後職員が外に出向いてPRするというようなことで、そうしますと、今までやっていなかったというような・・・。

確かに、この委託料の今度のこの補正でも24万4000円・・・、年間24万円というのは、職員は行っていないというように感じるわけですがけれども、いま職員が回らないと・・・、堂ヶ島あたりの業者だって職員がPRに出かけてお客を呼んでくるというような状況ですので、私のときに・・・、びっくりしたんですよ。そんなことをしていないと・・・。

もう一つ、それで、宣伝広告費の380万円、減額になってはいますけれども、ちょっとお伺いしますが、昔はマスコミ4団体との懇親・・・、意見交換なんかを設けて、その人たちは有効に使わせてもらったわけです。言い方はちょっとおかしいですが。実はそういう方たちは、テレビ・ラジオなんかの番組を持っているものですから、空き室があるような時期なんかについては、電話連絡をして番組の最後でいいから、旅の番組なんかをやっているときには、「伊豆まつざき荘あたりでは空いているようですね」というようなことを一言言ってもらうというようなことで、そういうようなことを常に努力していたわけですが、そうしますと、そういうようなことを今やっているのか、いないのか、ちょっとお伺いします。

○企画観光課長（山本 公君） 販売と言うんでしょうか、営業活動については、やっていないわけではないですが、昔、土屋議員が私とまつざき荘にいた頃は、毎月1回重たい荷物を持って、パンフレット、お土産を持って回ったというような経過もあるわけですが、全然実施をしていないというわけではないわけですが、やはり体制の中でなかなか難しかったという部分がありますので、それは4月からできるだけ外へ出て、営業活動ができるようにしてまいりたいと考えております。

マスコミさんとの懇談会というのも過去にやっております、まつざき荘を使ってやってきた部分もあるわけですが、こっちに来てもあったり、東京に行ったりという経過もあったわけですが、それも今、何十人と集めてやるというようなものはやってはおりません。ただ、その中でも少ない人数、松崎に昔から来ているマスコミさんについては、まつざき荘に来ていただいて、いろいろ町関係者、観光関係者といろいろ話をした中で、また記事に取り上げてもらうようなこともお願いをしているところでございますので、昔みたいな規模では今はできておりませんが、やっております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○1番（藤井 要君） これは補正予算ですので、突っ込んでもしようがないわけですが、

も、あれですかね。以前に中華民国からお客さんというか、中華民国ですね。中華民国からたくさんの修学旅行生とかが来るというようなことがありましたけれども、これが来ていれば、赤字じゃなかったかもしれないですけれども、その辺の今後の予定は。

○企画観光課長（山本 公君） 以前に県の事業の中で、台湾の方、教育旅行の関係者の方が下見に松崎町に来たことがございます。ただ、松崎だけではなくて、静岡県内を見て回ったというような状況でございますので、それがすぐに繋がるということではないと思います。ただ、まつぎ荘においても外国人のお客様が来たときに、少しでも対応できるようにということで、外国人向けのおもてなしの講習会をやったことがあるわけですが、まだまだそこを誘致するところまでは至っていないというような現状でございます。

○1 番（藤井 要君） 私は日本語だったら話せるんですけれども、ほかのやつはちょっとだめなんですけれども、ここのところ中国人とか、台湾とか、韓国からチラチラとはみえている、そのような、上向いているなという感じはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 中国、韓国はちょっとお互いに悪化していますので、ちょっとそこら辺はわからないんですけれども、台湾の方、まつぎ荘へ直接来ているわけではないんですけれども、台湾の方が来たよというようなお話は、町内に泊っているよというようなことは聞いたことがありますけれども、それがじゃあ、何十人、何百人も来ているようなレベルではないと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第16号 平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計補正予算
(第1号) についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長（稲葉昭宏君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。

(午後 1時53分)
